

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

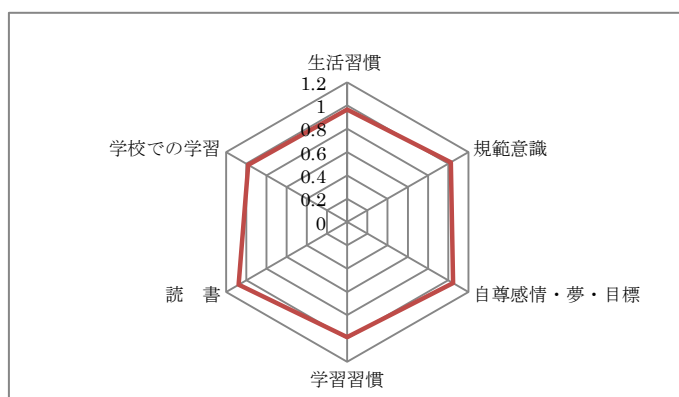
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	全国平均正答率を下回ってはいるが、昨年度に比べ、漢字の知識は上回っていた。話す・聞く、書く力についての問題に課題があり、よりよい内容にするためのポイントを考えるようにしたり、書いたりすることを習慣化する必要がある。	下回っている
国語B	インタビューに関する(質問を整理したり話し手の意図をとらえたりするなどの)問題に課題がある。	下回っている
算数A	図形(立体)の問題の正答率は全国平均を上回っているが、小数の問題や基本的な計算問題は全国平均正答率を下回っており、課題がある。	下回っている
算数B	複数の内容を基に式の意味を理解する問題や単位量あたりの大きさを求めるために、他に必要な情報を判断し、特定する問題などに課題がある。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

- ・「学校のきまりを守っている」「宿題をしている」「人の役に立つ人になりたいか」という項目において、ほぼ全ての児童が「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答した。規範意識、学習意欲、将来への展望など、いずれも高い水準の回答が際立っている。
- ・「自分で計画を立てて勉強をしている」については、約半数が不十分な状態であるとともに、家庭での学習の時間に課題がある。
- ・携帯やスマホ等のメディアに接触する時間が「1時間以内」と回答した割合が、全国平均に比べ低く、長い時間、なんらかのメディアに接触していることに課題がある。

### 3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・「ペア学習」「グループ学習」などの話し合う活動を重視し、子どもたちが自分たちで考え、話し合い、主体的に学習する授業の展開に継続的に取り組んでいく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・各種メディアに接する時間を減らし、宿題や自主学習の時間を確保すると共に、内容についての充実を図る。(家庭学習チャレンジハンドブックの活用など)